

かたらい



令和4年7月1日

発行 社会福祉 法人 とちぎ健康福祉協会

～ 健康経営 みんなの力で あふれる笑顔 ～

〒320-8503 栃木県宇都宮市駒生町3337-1
TEL (028) 622-2846
FAX (028) 621-1422
【U R L】 <http://www.kenkoufukushi.com>
【E-mail】 kenkoufukushi@arion.ocn.ne.jp



創刊
100号



機関紙「かたらい」第100号記念特集

機関紙「かたらい」が第二〇〇号を迎えました!

昭和五十五年七月十日の創刊号以来四十二年にわたり発行され続けてきた機関紙「かたらい」は、今回をもって第一〇〇号を数えることになりました。

こうして迎えた第一〇〇号という節目を記念して、これまでの歴史を振り返ってみたいと思います。

創刊号(昭和五十五年)

第十号(昭和六十年一月)

当時は、法人名が栃木県厚生事業団の頃であり、前年には、栃木県氏家コロニーのごとく寮とひまわり寮の、当年はすぎな寮とあやめ寮の受託が始まり、職員数も大幅に増えた時代でした。

その職員の情報共有と福利厚生充実に目的に「かたらい創刊号」が発行されました。(昭和五十五年七月)

手書きのガリ版刷りで、表紙は理事長の言葉から始まり、写真などはありませんでした。機関紙名は、「栃厚の友」「やすらぎ」など五十九点の応募の中から「かたらい」が選ばれました。

第二号からは印字となり、号数が増えるごとに写真やイラストが多く使われるようになるとともに、記事も多様になり、海外研修の報告や川柳・短歌・俳句なども掲載されるようになりました。

第十一号(昭和六十年七月)

第二十号(昭和六十四年一月)

これまでは年二回(一月・七月)の発行でしたが、五月発行も追加になり、年三回となりました。四コマ漫画「かたらいちゃん」も連載されました。

さらに、平成十二年から七年間連載された四コマ漫画「ピカッと! ひかりちゃん」が当時執筆された職員のご協力により、今号限り復活します。

過去の連載を知っている方は、懐かしさを感じて頂き、知らない方はほのほのとしたひかりちゃんの魅力をお楽しみください。

第二十一号(平成元年五月)

第三十号(平成四年五月)

それまで六ページ発行でしたが、第二十一号から、現在と同じ八ページになりました。

シリーズ「各駅停車」が始まりました。各施設の紹介をしており、タイトルデザインも毎回変更していらっしゃいました。

第三十一号(平成四年九月)

第五十号(平成十一年一月)

第三十六号(平成六年五月)からシリーズ「十人十色」が始まります。記念すべき第一回は四コマ漫画『ゼったいフクシくん』の作者・ミノ虫さんでした。

第三十八号(平成七年一月)からは毎年恒例となる「年男・年女」が始まりました。第三十九号(平成七年五月)から、「かたらい」の大きさがB五判からA四判となりました。

第四十七号(平成十年一月)では栃木県社会福祉事業団が創立三十周年を迎えました。それに伴って記念特集が掲載されました。内容は記念事業の詳細・各施設の歴史についてです。

第五十号(平成十一年一月)は、記念すべき第五十号の記念特集が組まれました。

初刊から第四十九号までに「かたらい」発行に関わってきた方から当時の思い出を語っていただきました。

第五十一号(平成十一年五月)

第六十号(平成十四年一月)

この頃は、最初と最後のページのみフルカラーでそれ以外はモノクロ印刷されていました。その後、第五十九号(平成十四年五月)からは全ページモノクロになりました。内容としては、とちぎ健康福祉協会の情報他に、俳句や四コマ漫画が掲載されていました。

第五十三号(平成十二年一月)には二〇〇号を迎え、各所属長から抱負をいただきました。

第五十四号(平成十二年五月)で約七年間連載していた四コマ漫画『ゼったいフクシくん(作者:ミノ虫)』が最終回を迎え、「ピカッと! ひかりちゃん(作者:こむりん)』へとバトンタッチされました。ミノ虫さんは四コマ漫画を掲載するにあたり、下野新聞社の四コマ漫画教室に通っていたそうです。後任の「ピカッと! ひかりちゃん」では、子どもならではの聞き間違いやダジャレなど、クスッと笑える内容となっています。

第五十七号(平成十三年十月)では法人名が「栃木県社会福祉事業団」から「とちぎ健康福祉協会」へと変わるとともに、シンボルマークが発表されました。『原民の大きな心(手)』の中で、三世代が支え合いながら明るく生

活している様子」を表しています。

第六十一号(平成十五年五月)

第八十号(平成二十四年七月)

第六十三号(平成十六年一月) 県北支所開所式典が催されたこと、どんな研修コースがあるかの紹介がされました。

第六十五号(平成十七年一月)では協会職員が瑞宝単光章を受章したことを掲載しています。受章を知った時の心境と皇居で行われた受章式についての様子が掲載されました。

第六十七号(平成十八年一月)では和楽荘の閉館に伴い、『さよなら和楽荘』というページが設けられました。和楽荘で働いた方達の想いが籠った言葉が紡がれています。

第七十号(平成十九年七月)で四コマ漫画の執筆がこむりんさんからまことさん(漫画タイトル『今日も腕まくり』)へとバトンタッチしました。

しばらく掲載が無かった「年男・年女」のコーナーが第七十一号(平成二十年一月)で再び登場しました。

第七十八号(平成二十三年七月)に東日



機関紙「かたらい」第100号記念特集

本大震災の各施設等被害状況報告が掲載されました。現場の写真が被害の大きさを物語っています。



第九十一号(平成三十年一月)〜第九十九号(令和四年一月)

第八十号(平成二十四年七月)では被害を受けた建物のほとんどが復旧しました。また、建替え整備が完了したわかかさへの引越作業が完了しました。

第八十一号(平成二十五年一月)〜第九十号(平成二十九年七月)

第八十一号(平成二十五年一月)から全ページカラー仕様となりました。第八十二号(平成二十五年七月)の『とちぎ健康福祉協会役員等名簿』のページでシンボルマークがカラーデビューとなりました。また、那珂川苑が開設三十周年を迎え、記念特集コーナーが設けられました。

第八十四号(平成二十六年七月)では完成した宝木保育園新園舎が表紙を飾り、新しい設備の紹介や、子どもたちの様子などが掲載されました。第八十八号からは「理事長への提案・相談」の欄が登場します。

第九十一号(平成三十年一月)では栃木県厚生事業団設立から五十年が経ち、記念事業「栃木県厚生事業団設立から五十年を迎えて」の様子が掲載されました。第九十二号(平成三十年七月)では約四年をかけた清風園の建て替えが完了し、バリアフリーを基本とした施設の紹介がされました。

第九十三号(平成三十一年一月)では、那珂川苑が三十六年の歴史に幕を下ろしました。昭和五十八年に全国で三番目の障害者更生センターとして開設し、五十五万人の宿泊利用者を迎えることができました。那珂川苑で働いていた職員から、営業終了に関してのコメントをいただきました。

第九十五号から続いた『桜ふれあいの郷 建替整備進捗状況』のスペースも、第九十八号(令和三年七月)の『桜ふれあいの郷 新施設の開所について』を持って終了となります。地鎮祭から始まり、基礎工事、施設建設と見守ってきた読者にやっと施設内をお披露目することができました。

第五十五号〜第七十号まで連載していた『ピカッとひかりちゃん』が一〇〇号限りで復活しました！

ピカッとひかりちゃんの執筆に寄せて



過去の作品のテーマををご紹介します。

- 一 桃太郎(っこ)(鬼ママ、犬ママ)
 - 二 ご声援と五千円の勘違い
 - 三 たぬきのたからばい
 - 四 恵比寿(ABC) 大黒(外国)
 - 五 おかあさんエステにいく
 - 六 いろんな髪型
 - 七 落とし玉よりお年玉
 - 八 木曜日(サースデー)は危険
 - 九 インフレって病気かな
 - 十 お母さんの天気予報
 - 十一 喜びを分かち合う年賀状
 - 十二 合掌部をつくろう
 - 十三 お正月は初づくし
 - 十四 除草じゃないよ助草だよ
 - 十五 いのしいであいさつ
- 機会がありましたらご覧ください。

「漫画なんだから。堅苦しくなくていい。」と割り切ったら描けました。悩み、振り返り、気づき、行動する貴重な経験をさせていただきました。



令和4年度とちぎ健康福祉協会資金収支予算

自 令和4年4月1日
至 令和5年3月31日

(単位：千円)

Table with columns: 勘定科目, 本年度予算額, 前年度予算額, 比較増減(Δ). Rows include 事業活動による収入, 事業活動による支出, 施設整備等による収支, その他の活動による収入, その他の活動による支出, 予備費支出, 当期資金収支差額合計, 前期末支払資金残高, 当期末支払資金残高.

令和4年度
とちぎ健康福祉協会事業計画

I 事業運営方針

新型コロナウイルス感染症が国内で初めて発生して二年が経過した。当協会においては、基本的な感染症対策の徹底のほか、積極的なワクチンや福祉施設職員に対する定期的なスクリーニング検査の実施など様々な対策を講じてきた。今後も引き続き気を緩めることなく新型コロナウイルス感染症対策に取り組み必要がある。

令和三年度は、桜ふれあいの郷で新施設でのサービス提供を始めたほか、新たな人事管理体制の運用を開始し、キャリアパス制度を導入して、給与制度を見直すなど、人材確保と職員の資質向上に取り組んだところである。人材の確保については、特に利用者支援職員の確保に苦慮しており、人材の育成とともに当協会の喫緊

の課題となっている。また、長時間労働の防止や超過勤務の縮減、交代制の職場における欠員の補充、一部の職員の負担感の解消なども課題となっている。

これらを踏まえ、令和四年度においては、人材確保のため広報活動や、人材育成に係る職員研修の充実強化を図るとともに、引き続き適正な人事考課の実施、キャリア形成支援など、新たな人事管理制度の充実に向けた取り組みを行っていく。また、業務の内容、実施方法、業務量及びこれに見合った人員配置に係る点検を行い、長時間労働の防止、超過勤務の縮減など、職員が働きやすい職場づくりを推進する。

さらに、平成三十年年度から令和四年度までの五か年の計画であるとちぎ健康福祉協会基本計画(二期計画)は令和四年度で最終年度を迎える。本計画を締めくくるとともに、とちぎ健康福祉協会の目指すべき方向性とその取り組み方を検討して新たな計画を策定し、将来にわたり持続可能な法人として、自主自立経営を確かなも

のとしていくこととする。

II 重点事項

令和四年度は、次の事項について重点的に取り組む。

- 一 キャリアパス等級制度や人事考課制度など人事管理制度の充実・定着
二 人材の確保、育成、職員が働きやすい職場環境の整備

様々な方法での広報活動により人材の確保に努め、職員研修の充実強化を図ることにより人材の育成を図るとともに、長時間労働の防止に係る対策、新たな勤怠管理システムの導入の検討を行うほか、人員の適正配置に係る点検を行うなど、業務の効率化を図り、職

員が働きやすい職場環境を整備する。
新型コロナウイルス感染症への対応
令和三年度には福祉施設職員に対してのみ実施した定期的なスクリーニング検査について、法人内全職員に範囲を広げるなど、引き続き新型コロナウイルス感染症対策を徹底する。

- 三 事業継続計画(BCP)の策定
四 新型コロナウイルスなどの感染症や地震、水害等の自然災害時における事業の継続に係る計画を定め、危機管理対策を講じる。
五 次期指定管理の申請に向けての検討
令和五年度が最終年度となるとちぎ健康づくりセンター、とちぎ生きがいきなりセンターの指定管理業務について、次期申請に向けての検討を進めていく。

六 次期中長期計画(基本計画四期計画)の策定
三期計画を振り返り、課題を明らかにし、令和五年度から令和九年度までの今後五年間の法人の目指す方向性と、その実現に向けた第四期計画を策定する。

とちぎ健康福祉協会役員名簿

(令和4年7月1日現在)

理事

(敬称略・順不同)

氏名	所属
富田 哲夫	とちぎ健康福祉協会 理事長
小堀 哲生	とちぎ健康福祉協会 常務理事総務福祉部長
松村 誠	とちぎ健康福祉協会 常務理事生きがい健康部長
谷口 一広	とちぎ健康福祉協会 総務福祉部総務課長
荒井 一宏	とちぎ健康福祉協会 桜ふれあいの郷 所長
小室 悦子	とちぎ健康福祉協会 宝木 保育園 長

監事

(敬称略・順不同)

氏名	所属
小祝 章二	栃木県国民健康保険団体連合会 常務理事
増山 雄貴	増山公認会計士事務所 公認会計士・税理士

評議員

(敬称略・順不同)

氏名	所属
関根 房三	栃木県社会福祉協議会 会長
前川 昭一	栃木県老人クラブ連合会 会長
麦倉 仁巳	栃木県身体障害者団体連絡協議会 会長
日向野 文代	栃木県民生委員児童委員協議会 会長
佐護 操	栃木県手をつなぐ育成会 副会長
浜野 修	栃木県地域包括・在宅介護支援センター協議会 会長
星野 雄一	栃木県立リハビリテーションセンター 理事長兼所長

行事あれこれ

ねりんピックとちぎ2022

生きがい健康部

「ねりんピックとちぎ2022スポーツ・文化交流大会」は四月十七日から約一カ月半、十九種目にて開催しました。一昨年と昨年は残念ながら新型コロナウイルスの影響で「全国健康福祉祭ぎふ大会」が延期、中止となったため行えませんでした。

各競技に参加した選手は、三年ぶりに開催される全国大会を目指して白熱の戦いを繰り広げました。

またシルバー作品展では、日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真の六部門に合計百六十六点の応募があり、六月一日(水)から五日間にわたり全ての作品が展示されました。作者の想いがたくさん詰まった素晴らしい作品ばかりで、作品展にはたくさんの方々が来場されました。

シルバー作品展の上位入賞作品十二点とともに、スポーツ・文化交流大会で選ばれた十九種目の選手の方は、栃木県代表選手として十一月十一日(土)から神奈川県で開催される「全国健康福祉祭 神奈川・横浜・川崎・相模原大会」に参加します。

栃木県選手団の皆様がどんなはつらつプレーを見せてくれるのか、ご活躍を期待しています。



「とちぎ健康の森フェス」

生きがい健康部

六月四日(土)、とちぎ健康の森では、県民の日協賛イベントとして、「とちぎ健康の森フェス2022」を開催しました。

開催当日は、コロナワクチン接種会場も開設されていました。そのため、館内の主要な会場も使用できない状況であり、また、館内入口の混雑も予想されたため、来館されたお客様が戸惑わないよう、工夫しながら会場へと案内をしました。

限られた会場を有効に活用しながら、とちぎ健康づくりセンターの紹介やエアロバイク等の器械を実際に体験できるコーナーを始め、骨密度測定・健康相談、健康づくり体験レッスン、県内就労支援施設の生産品販売の他、ねりんピックとちぎ2022のシルバー作品展を同時開催するなど、各種様々な催しを実施し、来館いただいた方々に喜んでいただきました。

最後になります。運営にご協力いただいた皆さま、誠にありがとうございました。



とちぎ健康の森フェス2022の様子

健康の森

ワンポイントアドバイス

コロナ禍における

歯と口の健康について

六月四日から十日は、歯と口の健康週間です。みなさんは、歯の健診は受けていますか？いい歯の日である十一月八日までに歯科健診を受けましょう。

さて、新型コロナウイルス感染症対策によるマスクの着用により、口臭が気になっている方も多いと思います。お口がマスクに隠れている今こそ、口腔ケアを日頃から行うことが大切です。

お口の健康を保つ口腔ケアのポイント

- ・よく噛んで唾液を出す。
- ・特に、寝る前の歯磨きをしっかりと、細菌を減らす。
- ・歯と歯の間、歯ぐきの境目を丁寧にケアする。
- ・舌の掃除、義歯のお手入れも忘れずに。

免疫力を高めるために、お口の健康を保つことが大切です。



編集後記

無事「かたらい第一〇〇号」を完成する事ができました。入職間もない時期に担当を命じられ、しかも記念すべき一〇〇号!!責任は重大です!

不安の中でたくさんの方に助けられながらここまでできました。通信員の皆さん!ありがとうございます!

次号、第一〇一号ではもう少し段取りよく作成していければと思います。